

近江商人の知恵と理念を現代に生かす情報紙

AKINDO委員会

さんぽう

三方よし

第21号
2002/3

CONTENTS

特集 ユニバーサルデザインと三方よし

- 人材と技術の棚卸しが今を救う (赤池学氏講演より) 2~3
- 新潟発ニュービジネス 4~5

- 中山道と近江商人 6~7
- 近江中山道宿駅制定400年記念事業 8
- てんびん棒 8



宿場町の繁栄が偲ばれる高宮のまちなみ

三方よし 「三方よし」は近江商人共通の経営理念。「売手よし 買い手よし、そして世間よし」の精神で地域社会に大きく貢献した。本紙は近江商人を代表する理念を主題としている。

ユニバーサルデザインと三方よし

AKINDOセミナー2002講演会より

去る平成14年3月14日、講師に株式会社イシダ代表取締役の石田隆一氏と株式会社ユニバーサルデザイン総合研究所所長の赤池学氏を迎えてAKINDOセミナー2002講演会が天津プリンスホテルで開催され、300名の参加者を得た。

誌面では、企業家の育成と起業につなげる発展的なプロジェクトに成功している赤池氏の講演概要を紹介する。企業とアーティスト、職人、地域の生活者が手を結んだ成功事例や経過をスライドを交えた報告が行われた。

人材と技術の棚卸しが今を救う

(株)ユニバーサルデザイン総合研究所

所長 赤池 学氏

近江商人とユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインとは、バリアフリーが進化したモノづくりの哲学です。日本語では、「共用品」、あるいは「共用品開発」と訳されていますが、共の字そのままに、「いっしょ」という意味合いを、社会や生活道具の中に見いだそうというものです。障害者・老人にとつて住みやすい家、使いやすいモノ、過ごしやすい町づくりを提案しています。基本理念は、まさに「三方よし」そのものです。そこから生まれたといっても過言ではありません。ヨーロッパには、昔からみんなのデザインという考え方がありました。デザインフォールと言っていますが、工学的発想からだけでなく、科学的発想も必要ということ。そして、その道具やシステムは孫の代まで続くこと考

えるわけ。まさに、愛です。近江商人の遺言に、自分の欲望をコントロールしなさい、というものがありますが現代にも通用するビジネスの本道であり、常に創造の原点です。

環境変化に対応したビジネス

リストラはエンドレスで、どこを向いても閉そく感いっぱいこの時代です。だからこそ、今、求められるものは「元気」。元気になる、元気を取り戻せるような会社でなければなりません。商いとこそ、時代を反映するものです。時代から逃げるのではなく、一緒に取り組む、又は挑戦という姿勢でなければ、置いてきぼりになるだけ。必要なことは、発想の豊かさ・柔軟性、そして人材・技術の棚卸しです。大きく整理したとき見えてくるものがあります。そして、会社の理念が社会貢献につながっているものか

否か。つまり「愛」があるかということ。アイデアと愛で、ビッグビジネスが生まれるわけ。ビジネスのヒントは、常に身近な生活の中にあります。焦りは禁物ですが、時代を見る、読む力が問われると考えます。

近江商人型ビジネスモデル

ユニバーサルデザインを地域や企業が作った例をご紹介します。

●地雷を探索する装置を開発した20名の町工場

「ジオサーチ」さんという、東京都大田区の社員わずか20名の町工場が地雷探索装置を開発されました。この会社は、道路の下にヒビや隙間を探索するための、システム開発や特殊な調査車両をつくる工場でしたが、この会社に国連の地雷担当官が訪ね、依頼を受けて半年間で試作開発し完成



赤池 学氏プロフィール

(株)ユニバーサルデザイン総合研究所所長
科学技術ジャーナリスト

昭和33年、東京都に生まれる。筑波大学生物学類卒業。社会システムデザインを行うシンクタンクを経営する傍ら、執筆、評論を行う。地域ならではの産業技術、人材、地域資源による「モノづくり」プロジェクトの運営、環境技術関連の地域資源データベース構築の事業にも参画する。

したのが、マインアイと呼ばれる装置です。しかし、製作当初は地雷地図もなく悪路を行く交通手段もなく大変でした。そこで、人道目的のための「地雷除去支援の会」というNPOを作りました。地図はソニーさんが、悪路を行く自動車は、トヨタさんやホンダさんの技術で確保したわけです。これは、様々なモノづくりに関わる企業群が、手を握りあった新しい成果でした。このようなビジネスは、今後の市場として大きくなっていくでしょう。

● 砥石工場が生み出した新しいビジネス

京都の宇治にある「三和研磨工業」さんは、砥石製造や加工砥石製造からスタートした会社ですが、墓石の加工から、ホテル等の大理石の壁を砥石で磨く展開まで進めました。そこから更に、ヒットを出したのが、工場のコンクリートの床の表面仕上げでした。この技術で、床はいつもピカピカ。メンテナンス料が格段に減り、生産性向上もアツプしました。やすり・砥石の問題意識が、次の展開を生み出したのです。

● アーティストと創り出した自動車パーツ

(株)ワコールの子会社「ワコールアートセンター」は、2年前より企業もっている上質な研究・アイデアを、クリエイティブなアーティストにゆだねるプロジェクトを立ち上げました。現在30人で組織されています。昨年、4月に展示されたポットペットは、自動車の後ろにしっぽをつけたもので、左右前後にクネクネ動きます。その方向により、後ろの車に「ごめんね」「先に行くよ」「ありがとう」を知らせるわけです。方向指示機だけだった車に、さらなる

コミュニケーションを求めたアイデアです。しっぽで挨拶する……という滑稽さが、生活者の共感を得られれば大手企業は動くわけです。実際、このアイデアに名乗りをあげたのが、東京の大手タクシー会社。まさに、アーティストならではの発想といえます。

研究開発型の

科学技術NPO

現在、日本には4000をこえるNPOがありますが、大体はサービスマン的なものが目立ちます。そんな中で物を作るNPOがあってもいいのではないのでしょうか。技術を結集したNPOです。これは企業活動から離れた新しいモノづくり、活動になります。企業の人材を一旦、技術NPOに派遣させるわけです。これは、社会貢献であり、教育トレーニングとしても使えます。そして、最後には人材と技術を本体にもって帰れるはずなんです。官僚の天下りも、こういった方向につなげればいいのではないのでしょうか。アメリカのNPOの25%は、科学技術NPOです。近い将来、日本もそうなるでしょう。ぜひ、行政マンと連携をとりながら、試行されてみてはいかがでしょうか。

滋賀にエールを！

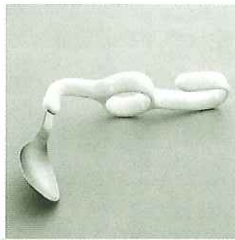
「AKINDO精神」＝起業精神というものは、時代がどう変わろうとも常に求められるものです。ベンチャービジネスは時代を反映しますが、基本理念は古今東西変わりません。常に、ビジネスモデルになる企業というのは視野が大変広い。つまり、聞く耳がある、ということとです。そこに、発想のヒントを見つけるわけです。上に立つ人間の発想次第で、会社は大きく変わります。安さ、早さの競争から、もう一度、自分たちのアイデアと愛をベースにした会社を目指し、社会に役立ち、地域に貢献していくような姿勢が、未来につながるのではないのでしょうか。若者たちが憧れる、熱意をかき立てられるそんな環境を作りたいたいものです。近江商人は後継者を育てるのがうまかったと聞きます。滋賀の地に根づく夢のプロジェクトを、ぜひ立ち上げて下さい。

※ユニバーサルデザインと地域の企業が企画した素晴らしい成功例「UD21・にいがた」の活動内容を以下に紹介します。

新潟発ニュービジネス

福祉の領域に「歩ふみこんだ」スプーン 環境保全型農業「黒酢栽培米」

― 赤池氏と地域の企業との連携プレーによる大ヒット商品 ―



▲リングに指を入れ、グリップの端を手のひらに巻きつけるようにすると、指の痛い人や指を曲げにくい人が食べやすくなります



▲グリップの部分は、温度の変化によって形が自由に変わります



▲(小児用) 手や指の変形、痛み、握力の低下などで握る力が弱い子ども向けです



▲握力が弱い人は、2本のグリップをいっしょに握ると安定します

職人の技が生きている／青芳製作所

福祉スプーンを中心としたモノづくり

地元新潟の異業種交流プロジェクトとして、2001年に立ち上げた「UD(ユニバーサルデザイン) 21・にいがた」の新しい挑戦は、これからのモノづくりに欠かせないキーワードが含まれています。上の写真は、手に障害のある人が使いやすいスプーンです。仕掛け人は、燕市にある青芳製作所常務の秋元幸平氏(45才)。燕市は江戸時代から古くからのリサイクルやキセルを作ってきたところで、現在は、洋食器メーカーの多いところ。秋元さんは、大量生産される個性のない商品ではなく、少量でも長く使える商品の大切さを経験から学びました。円高不況で苦しんでいた同社は1985年、障害者向けスプーンを発表しました。

手に障害をもつ人にとってスプーンは持ちやすく、軽いものでなければなりません。技術的には、グリップを太くすることで、持ちやすさを追求し、また、軽さの克服はチタンを使用することや、中が空洞であるキセルの原理を応用し製品化しました。設計思想は「人が道具に合わせるのではなく、人に合わせたモノづくり」。今や福祉関連施設で好評を得ています。UD 21を立ち上げたのは、まさにこのスプーンがきっかけでした。

すばらしい技術力、製品を貫く思想は、製造業の未来を開くカギとなります。1+1が3にも4にもなるような枠組みが必要になります。その頃、亀田製菓は、高齢者向けの飲み込みやすい、ふつくらおかゆの開発を始めていました。その理由は、老人の死亡率第4位が誤飲性肺炎だったからです。これは、食物に含まれる微生物が肺に入っ

てしまい炎症を起こすもので、初の介護食品を目指しました。老人にとつてやさしいおかゆとはどうあるべきか?を専門家に聞き、調査するなかで、具体的に進められました。

しかし、販売ルートの確保が課題となり、そこで、青芳製作



立上りのやさしいベンチ／サトミ産業

所に介護スプーンとの共同開発を申し出ました。そして、両社のノウハウを生かした、スプーンがセットで発売されたのです。今では、おかゆを入れる茶碗まで作られています。手にしたとき、やけどをしないように熱伝導性を調整させたものです。さらに発展させて、ユニバーサルな調理器具まで作り出しました。どんなに年をとっても、食べたいものを自ら調理するという生活を応援するものです。

他にも、例えば公園道具・設備製造のサトミ産業(長岡市)は、座面を曲面形状にし、立ち上がる際の負担を軽減したベンチを提案しています。又、寝具製造の伊藤商店(新発田市)は、トウモロコシ繊維を有効利用した寝具を発表しました。北越工業(西蒲分水町)は、環境配慮

型のトイレを作りました。ユニバーサルデザインを取り入れた商品開発は広がるいっぽうです。

この取り組みは、単に製品開発だけでなく、社会システムも良質にしていく引き金にもなる運動です。良質なモノづくりをするための先行投資は、社会の活性化にも役立ちます。

黒酢栽培米を量産

UD21は、更に、自然環境保全を視野に入れた商品開発に取り組まされた。人間の生存に必要な豊かな自然を未来に残さなければという発想からでした。それは、農薬の使用量を減らせる黒酢栽培米の量産です。連携したのは、きむら食品(株)・石山味噌醤油(株)・JA越後中央。3社とも米を原料にした製品作りをしています。黒酢栽培米は、減農薬化学肥料米の一種。50倍に希釈した黒酢を生育途中のイネに3回噴霧すると、イネの成長力が強まります。農薬の使用量が大幅に減り、安全な収穫が可能となります。食味も増すとい

います。UD21の加盟企業の石山味噌醤油(株)が黒酢栽培のノウハウを持っていたことも事業に拍車をかけました。結果、良質

のコシヒカリの収穫になり、おにぎりや餅、酒の新ブランドまでできました。黒酢栽培米の効果は想像以上でした。

あるゼネコンメーカーは、更に、黒酢栽培米を作る場所をより広く求めようと、朱鷺問題をかかえる佐渡の棚田に提案を出しました。栽培面積は大幅に増えました。農家数を佐渡を含む百戸程度に増やし、5年後には1万トンのコメ生産を目指しています。「米飯パックや米菓子などの原材料に売り込んで新潟の特産品としたい」(秋元代表幹事)と新たな名産づくりを展開しています。

ただ、すべてが順調だったわけではありません。問題は常につきまとい、試行錯誤の連続でした。

しかし、挑戦あるのみ。愛で貫くことです。UD21は、毎年、各社1年に1作品をユニバーサルデザインとして作り続けています。この試みはマスコミにもとりあげられ、UD21の展示会は、説明を求めるビジネスマンでいっぱいでした。町工場の熟練技能者も重要な役割を果たすUD21のノウハウは、地場産業の生き残り戦略ともなるお手本です。

UD21

「UD21にいがた」のメンバー



問い合わせ

「UD21・にいがた」事務局
(株)青芳製作所 秋元幸平(代表幹事)

TEL 0256-63-3442

「UD21・にいがた」の歩み

- 2000年1月
 - ・「UD21・にいがた」異業種交流プロジェクト発足
 - ・参加メンバーは会員9社、新潟県、新潟大学その他
 - ・顧問は赤池学氏と新潟大学の林豊彦教授
 - ※以降4カ月間にわたって「UD」について勉強会開催
 - ・青芳製作所と亀田製菓が介護分野で共同販促開始
- 2000年11月
 - ・第1回展示会発表会開催
 - ※以降、毎月企業訪問を開催
 - ※2001年度産の新潟コシヒカリとこがね餅に「黒酢農法栽培」の作付けを行う
- 2001年10月
 - ・滋賀県「国際AKINDO会議2001」に参加
- 2001年11月
 - ・「UD21・にいがた」のセミナー&発表会開催
- 2002年
 - ・活動方針発表 会員が15社に成長





<陰徳善事の象徴「常夜燈」>

写真は草津川堤防に建つ常夜燈。建立当時の場所から移動されているが、文化13年(1816)に日野商人の中井正治右衛門が東海道から信楽への分岐点を示す道標として建立した。正治右衛門は建立と同時に永代油料として銀2貫を添えている。源左衛門はこの常夜燈の他にも社会への寄付はおびただしく、その額は、79件8,670両にも及び、正治右衛門同様、近江商人の社会貢献の足跡は中山道の街道の随所に見ることができる。

近江から他国に出掛けて商売を行った近江商人の出身地の多くは、琵琶湖の東岸、中山道沿いに集中している。古代より東国と西国を結ぶ幹線道路が走る近江は交通の要衝として、幾たびも歴史の表舞台に登場し、街道の整備は、近江商人の発祥の

近江の街道と商人

中山道に宿駅制度が制定されて四〇〇年の本年、滋賀県内の各宿場町ではさまざまな行事の開催が予定されている。中山道はかつて近江商人が諸国の産物を持ち歩いた江戸時代の大幹線であると同時に、東西の物流の基幹としてさまざまな情報網が張り巡らされた情報ハイウエーでもあった。

中山道を行き交った近江商人

情報ハイウエー

中山道宿駅制定四〇〇年

ひとつの要因とも考えられる。関ヶ原合戦で勝利し、天下を掌握した徳川家康は、江戸と京都を結ぶ東海道と中山道を最重要街道として整備に乗り出し、慶長六年(一六〇一)には東海道、翌慶長七年(一六〇二)は中山道に宿駅をさだめ、街道の一里ごとには一里塚を設けるなど宿場の整備をおこなった。滋賀県甲賀郡水口町には、水口宿を宿駅に指定した「御伝馬之定(おでんまのさだめ)」が残り、常備する馬の数や継立の範囲を定め、伝馬役を引き受ける見返りとしての免税処置が記されている。

街道の整備が進み、宿場ができると、人々の往来は激しくなってきた。さらに庶民の旅ブームが到来し近江東海道や近江中山道にも特産品を独特の販売方法で商う商人が生まれてきた。中山道や東海道の整備は、御代参街道、朝鮮人街道、北国街道など近江の各地を結ぶ街道から全国に商いに出かけた近江商人に利便性を与え、一方地元近江で商う商人は街道の賑わいを格好のビジネスチャンスと考えた。アンテナショップの開設や、コマーションソングの制作、店頭での実演販売など、そのユニークな販売戦略は注目に値する。

姥が餅や大津絵など当時の街道名物は四〇〇年を経た今も、その歴史を伝え、街道のあちらこちらに往事の町の活況を伝える史跡が点在する。宿駅制定四〇〇年を記念した各地のイベントでは、また新しい発見が期待できそうである。



鳥居本宿場、中山道と彦根道の分岐点に建つ道標。



木曾街道名所図会には高宮布を扱う商家が描かれている。



県内の各宿場

代表的持ち下り商品 「高宮布」で栄えた高宮宿

多賀大社参詣の多賀道に通じる高宮の宿場は江戸時代中山道第二の規模を誇る宿場町として大いに栄えた。木曾街道名所図会では多賀大社参詣者や街道を行き交う人々で賑わう宿場のようすと高宮布を商う商家が描かれている。近江商人の代表的な持ち下り商品である「近江上布」はこの宿場の特産として有名で、街道沿いの商家では高宮布として商われていた。近年高宮商店街では宿場町の名残を町の活性化の起爆剤としての活動が積極的に展開され、本年十一月には町をあげての大イベントが予定されている。

情報戦略巧者な近江の商人

道の国近江といわれるように国内の東西を結ぶ幹線が通る滋賀県は今も昔も有数の幹線が走っている。現在は高速化によって幾分通過県的な要素が際だつが、鉄道輸送が主力となる以前の近江の街道は、貴重な情報が行き交っていた。東から西からの情報を巧みに商品流通に活かしてきたことに近江商人の特筆すべき特色がある。そして街道沿いの商家でも情報戦略を巧みに利用して商品流通の活性化、販路の拡大を展開してきた。先駆的な商人が柏原宿の亀屋左京商店や栗東の和中散本舗であった。彼らは商品を他国に流通する商人ではなかったが、今で言うアンテナショップ的な販促方法と街道の立地を活かした販売拡大戦略を展開してきた近江の商人であった。



山東町柏原宿の伊吹もぐさを商う亀屋左京商店の福助さん。柏原宿では毎年夏の「やいと祭」に人気が集まる。

本年四月、 豊郷に開館する 伊藤忠兵衛記念館

近代日本商社の原型を作ったといわれる伊藤忠兵衛の旧宅は、中山道沿いの豊郷町に現存するが、生誕一〇〇年を迎える本年四月より、伊藤忠兵衛記念館として広く一般に公開される。中世より紙座があった豊郷からは、北海道の漁場開拓で活躍した藤野四郎右衛門や、明治の日本経済界の大スポンサーであった薩摩治兵衛を輩出し、町内の豊会館や先人記念館では、彼らの足跡を知ることができ。一方、保存か改修かの選択で議論が沸騰している豊郷小学校は伊藤忠兵衛が創設した丸紅の専務であった古川鉄治郎の寄進によって昭和12年に建設された。東洋一の小学校として称賛された。



豊郷町の伊藤忠兵衛旧宅。四月には伊藤忠兵衛記念館として一般公開が予定されている。



豊郷小学校

—— 県内各地のイベントガイド ——

近江中山道400年祭

徳川幕府が中山道に宿駅制度を制定して400年を迎えます。

てんびんの里 ふれあいウォーク2002

- 5月19日(日)
- 集合場所 五個荘町中央公園
JR彦根駅から近江鉄道「五個荘」下車徒歩10分
- 問い合わせ (てんびんの里ふれあいウォーク実行委員会)
TEL/0748-48-2737

中山道 歩いて知ろう とよさとよさ!

- 5月26日(日)
- 集合場所 近江鉄道豊郷前
JR彦根駅から近江鉄道豊郷駅下車
- 問い合わせ (豊郷町観光協会)
TEL/0749-35-8114

柏原宿ウォークと 山東ほたるまつり

- 6月8日(土)
- 集合場所 JR米原駅前
JR米原駅下車
- 問い合わせ (山東町産業振興課)
TEL/0749-55-8105

近江中山道武佐宿街道ウォーク

- 6月9日(日)
- 集合場所 近江鉄道武佐駅前
JR近江八幡駅から近江鉄道武佐駅下車すぐ
- 問い合わせ (近江中山道400年記念事業近江八幡市実行委員会)
TEL/0748-36-5517

鏡の里歴史再発見ウォーク

- 11月23日(土)
- 集合場所 鏡神社
JR近江八幡駅より近江鉄道バス乗車 村田製作所行30分 バス停下車徒歩3分 名神竜王ICより車で10分
- 問い合わせ (竜王町商工観光課)
TEL/0748-58-3715

中山道柏原宿醒井散策会

- 11月23日(土)・24日(日)
- 集合場所 JR柏原・醒ヶ井駅前
JR柏原駅、醒ヶ井駅下車
- 問い合わせ (山東町産業振興課)
TEL/0749-55-8105
※なお事前予約が必要な場合がありますので、あらかじめお問い合わせください。

中山道宿駅制定四〇〇年記念イベント県下で開催

四月の草津宿場まつりを皮切りに県内の各宿場では本年、ポイントラリーが展開され、中山道沿線市町の指定商店での買い物や食事などにポイントが付加され記念品が進呈される企画が展開される。

■詳細のお問い合わせは

近江中山道四〇〇年祭実行委員会事務局
(滋賀県観光連盟内) TEL/077-523-2752

てんびん棒

AKINDOセミナー終了後、AKINDO会議メンバー有志と赤池氏との懇談の席上、「技術、情報、人材の棚卸しが必要」ということが再三強調された。この言葉には深い意味が含まれている。どこに何が、どんな風であるかを認識することから新しい発想が生まれる。講演の中でユニバーサルデザインと企業活動のコラボレーションの成功例として「UD21」が紹介されたが、かつての建前だけの異業種交流とは、ひと味もふた味も異なった展開ぶりが注目される。そしてこの新潟の取り組みに滋賀からも熱いまなざしを向けている人たちがいる。新潟と同様「米どころ」の湖国で、差別化を進めながら、琵琶湖への環境負荷に配慮した農業への道を追求している人たちである。昨年の国際AKINDO会議で「UD21にいがた」の取組事例を聞き、早速に新潟で情報を収集し、その後新しい気運が芽生えはじめていく。芸術の分野のみならず、異なった分野間のコラボレーションが盛んに展開され、思わぬ効果が誕生しているが、地域を超え業種を超えた連携から、世の中が求めている新しいモノづくりが始まるのであろう。

言いつくされた言葉ではあるが「必要は発明の母」「三人よれば文珠の知恵」という言葉が、今再び脳裏をかすめる。(一)

近江商人関係資料館の行事案内

- ◆近江商人郷土館 (愛知郡湖東町小田町 TEL/0749-45-0002)
5月21日(火)～11月30日(土)まで
- 第15回特別展「近江商人の情報活用」
行商活動を基準とした、近江商人の情報収集と経営への活用や、試行錯誤の過程を一覧できる。
- ◆近江商人屋敷 (五個荘町金堂 TEL/0749-48-5557)
4月20日(土)～5月19日(日)まで
- 商家に伝わる武者人形めぐり
近江商人の発祥の地、てんびんの里五個荘町では、商家に代々伝わる嘉永年間の武者人形(五月人形)をはじめ、明治・大正・昭和の武者人形を展示。

第2回ビューティフル・ビジネスプラン・コンペティション
昨年に引き続き今年もコンペの開催を予定。詳細は追ってホームページに記載いたします。
<http://www.biwa.ne.jp/~akindo>

前号20号記事中の「近江八幡商業高校」は「八幡商業高校」の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。